

審査結果概要（取手市立取手ウェルネスプラザ及び取手ウェルネスパーク）

1. 採点結果

審査項目	配点	得点	
		とりで健康づくりパートナーズ	特定非営利活動法人 日本スポーツ振興協会
ア) 申請団体の実績や理念に関する事項	200	169点 (85%)	170点 (85%)
①類似施設におけるこれまでの実績と専門性	100	88点 (88%)	84点 (84%)
②申請団体の経営状況や経営方針、指定管理を申請した理由	100	81点 (81%)	86点 (86%)
イ) 指定管理の基本方針に関する事項	120	86点 (72%)	101点 (84%)
①管理運営に関する基本方針	120	86点 (72%)	101点 (84%)
ウ) 施設の管理運営体制に関する事項	200	164点 (82%)	164点 (82%)
①職員の配置や勤務体制、研修計画	100	82点 (82%)	80点 (80%)
②緊急時の対策と対応、個人情報保護、職員の待遇等	100	82点 (82%)	84点 (84%)
エ) 運營業務に関する事項	600	420点 (70%)	525点 (88%)
①広報や宣伝の取組	100	71点 (71%)	86点 (86%)
②利用料金の設定と利用手続き	100	75点 (75%)	89点 (89%)
③稼働率の目標と利用促進の取組	100	70点 (70%)	89点 (89%)
④管理者業務の効率性及び確実性の向上	100	76点 (76%)	84点 (84%)
⑤利用者満足度の向上	100	73点 (73%)	86点 (86%)
⑥認知動作型トレーニングシンの利用促進または代替案	100	55点 (55%)	91点 (91%)
オ) 施設の維持管理業務に関する事項	200	148点 (74%)	163点 (82%)
①建物や設備機器、備品等の長期保全の取組	100	77点 (77%)	81点 (81%)
②廃棄物発生の抑制及び省エネルギーの推進	100	71点 (71%)	82点 (82%)
カ) 自主事業に関する事項	380	284点 (75%)	324点 (85%)
①市民交流支援事業	100	78点 (78%)	84点 (84%)
②健康づくり支援事業	100	68点 (68%)	84点 (84%)
③子育て支援事業	100	73点 (73%)	85点 (85%)
④その他の事業（飲食事業、物販事業等）	80	65点 (81%)	71点 (89%)
キ) 収支計画に関する事項	300	238点 (79%)	247点 (82%)
①収入計画の妥当性	120	90点 (75%)	91点 (76%)
②支出計画の妥当性	100	78点 (78%)	82点 (82%)
③経費節減や増収の取組	80	70点 (88%)	74点 (93%)
ク) その他の事項	100	68点 (68%)	86点 (86%)
①上記審査項目やそれ以外の項目における特筆すべき提案	100	68点 (68%)	86点 (86%)
合計	2100	1577点 (75.1%)	1780点 (84.8%)

2. 評価概要

(優先交渉権者)

優先交渉権者として選定した「特定非営利活動法人日本スポーツ振興協会」は、審査項目全般にわたって相対的に高い評価を得ており、合計得点は2,100点中1,780点(約84.8%)であった。

提案では、管理運営を行ううえでの基本理念として「～利用し続けるほど好きになる施設への挑戦～」を掲げ、新たな提案や取組に挑戦し、スポーツ活動・文化活動・趣味・レクリエーションによって、市民の「居場所づくり」「生きがいづくり」につながる「いつでもどこでも必要に応じて楽しく通い続けられる施設」の実現を図るとしている。

提案内容は、審査項目すべてにおいて、8割以上の得点となり、特に高く評価したポイントは以下のとおりである。

- 運営において、AR(拡張現実)やICT(情報通信技術)を駆使した情報発信の取組やインフルエンサーを活用した効果的な周知活動により幅広い市民層への認知向上と集客効果が期待できる。
- 既存の利用者のみならず、子供から高齢者まで幅広い層に向けた取組を展開する姿勢が見られた。また、外国人職員の配置や施設予約時のキャッシュレス決済の導入等、利用者の利便性向上に寄与するだけでなく、新たな利用者層の獲得にも積極的に取り組む意欲が見受けられ、利用者拡大と多様化に期待できる。
- トレーニングジムにおいては、「～より多くの市民が気軽に利用できるジムに進化します～」というコンセプトのもと、現状の利用状況や市民ニーズを踏まえた分析を行い、利用者の利便性や満足度を高める新たなトレーニングマシンの導入を提案された。これにより、幅広い市民が利用しやすい施設を目指し、利用率向上につながる効果的な取組が期待される。
- 施設の維持管理において、一級建築士事務所としての専門職を活かし、建物や設備機器の予防保全を重視し、市民の安全で安心な施設を提供しながら長期保全を実現する取組が考えられていた。また、グラウンド整備のノウハウを活かし、ウェルネスパークの芝生の管理を適切に行い、施設環境の維持にも貢献することが期待できる。
- 自主事業において、多岐にわたる事業を展開し、多くのニーズに対応したプログラムが提供され、市民の生活の向上や地域社会全体の活性化に寄与していることが見受けられた。類似施設で実施したノウハウを活かした大規模イベントや、団体の強みを活かした健康づくり事業、子育て世代に興味を抱かせる子育て支援事業など本施設の設置目的達成にむけた魅力的な事業が計画されている。
- 収支計画において、最低賃金の引上げを考慮した人件費の確保や初年度に新たなトレーニングマシンやオンライン決済システムを導入するための初期投資など具体的な積算がされ、指定管理料の削減が図られている。また、経費削減策として、職員自らが施設の修繕作業を行い、他施設での具体的な例が挙げられ、大幅なコスト削減を実現している。さらに、利益が出た際には、利益の50%を地域交流イベントなどで市民へ還元することから、地域貢献への意欲も期待される。

以上により、「特定非営利活動法人日本スポーツ振興協会」は、本施設を公募要項に基づいて安定的な管理運営ができると見込まれることに加え、新たなニーズへの対応や、従来ない魅力的なアイデアによるサービス向上・事業展開を期待することから優先交渉権者として適当であるとの結論に至った。

(次点交渉権者)

次点交渉権者として選定した「とりで健幸づくりパートナーズ」は、優先交渉権者には及ばなかったものの、合計得点は2,100点中1,577点(約75.1%)と優先交渉権者に次ぐ得点であった。

提案では、管理運営を行ううえでの基本理念として「とりで幸献(こうけん)～活力を育む施設～」を掲げ、現指定期間中に培った経験やネットワークを活かして更なる利用者サービスの向上と管理運営の効率化を図るとしている。

提案内容において高く評価したポイントは以下のとおりである。

- 共同事業体としては財務的に安定しており、代表企業、構成企業ともに多くの運営実績と専門性に長け、これまでの本施設での運営実績があり、地域貢献の姿勢が見受けられた。
- 運営において、インターネット予約の継続に加え、カフェでのキャッシュレス決済の導入等、利用者の利便性向上に寄与した取組が考えられている。
- 自主事業において、周辺地域と連携して実施する大規模イベントや、幼少期から質の高い文化芸術に触れる機会を提供する芸術鑑賞イベントなど、市民交流支援、子育て支援の分野における魅力的な事業が計画されている。
- 収支計画において、現指定管理者としての経験を活かした現実的な積算のなかで指定管理料の縮減が図られている。さらに、利用料金収入において、一定の利益を超えた際には、超過分の10%を施設の修繕やイベント実施などで市民へ還元することから、地域貢献への意欲も期待される。
- 上記以外にも、これまでの本施設での運営経験を活かし、利用者のニーズに合った事業展開が随所に見られた。

また、優先交渉権者には及ばないものの、全般的に公募要項の水準を満たす管理運営が可能と見込まれることから、次点交渉権者として適当であるとの結論に至った。